

ますずな

KIZUNA

2

2021年
令和3年

特集 社会と人権

わたしらしく、
あなたらしく



INDEX

- 2 「全ての人が自分らしく働ける社会を目指して」
星 賢人さん (株式会社JobRainbow 代表取締役)
- 3 「性の多様性と人権」
東 優子さん (大阪府立大学 教授)
- 4 「野村證券株式会社～LGBTアライの輪を拡げる取組～」
大谷 英子さん
(野村證券株式会社コンタクト推進部 ダイバーシティ&インクルージョン推進グループ長)
- 5 「SDGsはなぜ必要？」
室山 哲也さん (日本科学技術ジャーナリスト会議 会長 (元NHK解説主幹))
- 6 「拉致問題早期解決を願って」
拉致問題の早期解決を願う国民のつどいin米子
- 7 「アイヌ文化復興の拠点ウポポイ (民族共生象徴空間) オープン」
田村 将人さん (国立アイヌ民族博物館 展示企画室長)
- 8 情報ぶらざ



ひろげよう こころのネットワーク



兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会
兵庫県マスコット はばタン

人々の価値観や生き方の多様化などにより、人権課題はますます多岐にわたり複雑化しています。これからの社会では、多様性を認め合い、共存していく考え方が重要であり、国連が提唱する世界共通の「持続可能な開発目標(SDGs)」でも「誰一人取り残さない」社会の実現が掲げられています。

本号では、一人ひとりがお互いの違いを認め、それぞれの人権を尊重し、多様性を容認する社会づくりについて考えてみましょう。

特集 社会と人権

全ての人が自分らしく 働ける社会を目指して

株式会社 JobRainbow

代表取締役

星 賢人 さん



プロフィール

自身もLGBT(ゲイ)の当事者として、月間47万人がアクセスするNo.1LGBTダイバーシティ採用広報サイト「ジョブレインボー」を立ち上げる。東京大学大学院情報学環教育部修了。Forbes 30 Under 30 Asia / JAPAN 選出。孫正義育英財団1期生。板橋区男女平等参画審議会委員。『自分らしく働くLGBTの就活・転職の不安が解消する本(翔泳社)』を出版。これまでに上場企業を中心とし、500社以上のダイバーシティコンサルティングを実施。

LGBTを取り巻く現状

世の中ではあらゆる多様な人が生きており、国籍・障がい・年齢・家族構成など人それぞれ違っています。そして、その違いの中にLGBTをはじめとするセクシュアリティも含まれます。

LGBTとは、レスビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字をとった、セクシュアルマイノリティの総称で、いわゆるシスジェンダー・ヘテロセクシュアル(生まれたときの体の性とこの性の性が一致し、異性にのみ惹かれる)という多数派ではない人々を指しています。私自身も、ゲイの当事者です。

数にして日本の人口の約8.9%を占めていると言われており、今もなお、教育・就職・結婚・保険など人生の様々なステージにおいて困難を抱えていることが少なくありません。

LGBTの社会的課題解決に向けて

働く現場を例に考えてみます。ある調査によると、職場でLGBTに関する差別的な言動を頻繁に経験したことがある人は半数以上にものぼるそうです。当事者にとっては差別的な言動を聞いたり、カミングアウトができないことによって仕事で力を発揮しづらかったりと、小さなストレスが積み重なり、離職率やうつ病の発症率が高くなっている現状があります。

一方で、LGBT研修を受講したり、LGBTの差別禁止を就業規則で明記したりとLGBTフレンドリー(※)な会社も存在しています。

そこで私は、全ての人が自分らしく働ける社会を目指して、2016年に株式会社JobRainbowを創業しました。LGBTフレンドリーな会社とその求人情報を掲載する「求人サイトJobRain

一人ひとりにできること

bow」の運営や、LGBT研修の実施、LGBTフレンドリーな職場づくりのための就業規則改定などのコンサルティングを行っています。現在は約400社の企業情報を掲載し、500以上の企業・教育・行政機関で研修を実施させていただいています。

LGBTの社会的課題を解決するためには、人口のたった約8.9%であるLGBTだけではなく、残りの91.1%の人の力も必要です。まずは、目の前の人が当事者かもしれないという視点を持って生活して、アライ(LGBTだけでなく、違いを理解し、支援する人)になってみませんか。

※LGBTの人に対して偏見なく平等にフレンドリーに接すること

性の多様性と人権

大阪府立大学 教授

東 優子^{ひがし ゆうこ}さん

LGBTと人権

国内初の「同性パートナーシップ制度」の実施が発表された2015年、その後から「LGBTブーム」という言葉が聞かれるようになりました。現在、60を超える自治体で導入されているこの制度は、法律上の家族ではないという理由で入院時の面会が許可されない、公営住宅に申し込みできないといった問題を自治体レベルで解消することを目的としています。

教育現場も大きく変わろうとしています。「きめ細やかな対応の実施等」という文科省の要請に応じて、教職員研修が実施されるだけでなく、男女別の制服やトイレのあり方などを検討する学校も増えてきました。

「ダイバーシティ(多様性)推進」は、

企業活動の優先課題でもあります。誰もが働きやすい職場づくりには、同性カップルを視野に入れた福利厚生制度の見直しなども含まれます。性別、人種、民族、門地、宗教、障害の有無などと同様に、性的指向・性自認の多様性は、重要な人権課題なのです。

当事者がいない？

LGBT人口は、少なく見積もって5%前後。「左利き」人口とほぼ同じだという説もあります。ところが日本では、「知り合いに当事者がいない」という声をよく聞きます。これはどういうことなのでしょう？

自分が「そうである」ということを表明することをカムアウトといいます。ね、する、しないは、個人の自由ですが、カムアウトすることで何らかの不利

(人間関係が壊れるなど)をこうむるかもしれないという不安や、アウティング(勝手に暴露されてしまうこと)への懸念があるために、沈黙している当事者が多く存在しています。「いない」ではなく、見えなくしているのが、日本社会の特徴だといえます。

日常の「当たり前」を変えていく

当事者の不安や懸念には、日常生活で蓄積される「傷つき体験」が関係しています。「ホモ・おかま」などの差別的呼称を使った侮蔑・嘲笑、男同士のキスを「罰ゲーム」にするTV番組、女装を余興にして盛り上がる飲み会などの例は、枚挙に暇がありません。

その多くは、「よくある、些細な出来事」と処理されてしまうものですが、



プロフィール

大阪府立大学博士(人文科学)。専門は、性科学、ジェンダー研究。院生時代から「性の健康と権利」にかかわる市民活動に参加し、現在、世界性の健康学会「性の権利委員会」副委員長、GID(性同一性障害)学会理事、NPO法人虹色ダイバーシティ理事などを務める。『トランスジェンダーと職場環境ハンドブック』など、共著多数。



もたらされるインパクトは決して小さいものではありません。こうした日常が繰り返され、「傷つき体験」が蓄積されていくことで、メンタルヘルスが悪化し、不登校や退職・転職、自傷行為、あるいは自死につながることもさえあります。

状況改善の第一歩は、日常の「当たり前」を見直し、些細に思えることでも見過ごさず、問題を発見したら声をあげることです。人権はみんなのもの。「誰か」ではなく、「わたし」から始めませんか。

「野村證券株式会社」

「LGBTアライの輪を拡げる取組」

野村證券株式会社コンダクト推進部
ダイバーシティ&インクルージョン推進グループ長

大谷 英子 さん

LGBTに対する取組について

野村グループは、多様な人材が最大の財産であり、競争力とイノベーションの源泉であるという考えのもと、LGBTも社員の多様性の一つと捉え、様々な取組を進めてきました。取組が加速したきっかけは、2008年に、リーマン・ブラザーズの欧州とアジアのビジネスを承継したことです。その際、多様性を尊重し、力を合わせていくという「ダイバーシティ&インクルージョン」の考え方と、社員がボランティアでこの考えを拡げる活動を行う「社員ネットワーク」を引き継ぎました。そのネットワークの一つが、2010年より始めたLGBTに関する啓発活動です。

会社の取組としては、2012年に

LGBTの方への社内の対応

3年前、トランスジェンダーの方が

LGBTへの差別禁止を「野村グループ倫理規程」(現在は「野村グループ行動規範」に統合)に盛り込みました。2013年からは、LGBTに関する内容にも触れるダイバーシティ研修を始め、さらに、「アライ」(*)になる「う」をテーマにした社内外イベントへの参加、制度・運用(パートナーシップ制度、トランスジェンダー対応ガイドライン)の整備を通じて、当事者の方々が安心して働ける社内風土の醸成に努めてきました。2019年には、国際連合の「企業のためのLGBTI(※)行動基準」に、日本の金融・証券業界で初めて署名しました。



プロフィール

野村證券は、グローバル金融サービス・グループである野村グループの中核会社として、全国の本支店・営業所やコールセンター、インターネットを通じて国内の個人や法人のお客様にさまざまな金融サービスを提供しています。兵庫県には、神戸、姫路、西宮、明石に支店があります。

えています。

県民・企業の方へのメッセージ

野村グループでは、LGBTだけでなく、国籍・人種・性別・信条、社会的身分、障がいの有無等にかかわらず、様々な人が活躍できる環境づくりを進めています。多様性と人権を尊重する意識をさらに拡げ、安心して生活できる街づくりに貢献できるよう、皆様とともに歩んでまいります。

※1 LGBTの同盟・支援者を指す言葉。

※2 LGBTのIはintersexの略。身体的性が一般的に定められた男性女性の中間もしくはどちらとも一致しない状態。

入社するにあたり、現場の社員がガイドラインに沿って対応した事例があります。当事者だけでなく周囲の社員からも、こうしたガイドラインがあることで、安心して迎え入れることができたという声が挙がりました。

アライを増やすためにできること

大きく三つ考えられます。まずは、社内情報発信により「LGBTを知る機会を増やすこと」。二つ目は、研修や勉強会などを通じて「理解する」機会を提供すること。三つ目は、当事者を招いたセミナーやパレードなどへの参加を促し、当事者と触れ合うことで「共感し、自分事として考える」機会を提供すること。一〇三の順に取り組むことで、自ずとアライが増えると考え



SDGsはなぜ必要？

日本科学技術ジャーナリスト会議 会長
(元NHK解説主幹)

室山 哲也 さん

SDGsとは

最近SDGsという言葉をよく聞きます。2030年に向けて、持続可能な社会を作るための国連の目標で、「貧困をなくす」「飢餓をなくす」「エネルギー」「クリーン」「住み続けられる街づくり」「産業と技術革新の基盤づくり」「平和と公正」などの項目が掲げられています。並んでいる言葉は、なるほど、仰せの通り、どれも大切なことばかりです。しかし、ある意味、当たり前の理想が並んでいるようにも見え、そもそも、なぜ今SDGsが重要なのか、いまいちよくわからないのではないのでしょうか。

エコロジカルフットプリント

私はいま、次のように考えています。

SDGsの根底には地球環境問題があると思います。エコロジカルフットプリント(※)という指標から見れば、現在(2014年)の人類は、すでに地球1.7個分の生活をしています。もし今の文明システムのまま、人類全員が、日本人のレベルの生活をすれば地球が2.8個、アメリカ人のレベルの生活をすれば地球が5個必要です。地球は1個しかありません。私たちはすでに地球が持つ資産や生産力を大幅に超えた生活をしており、いうなれば地球を食いつぶしているわけです。世界の人口は、産業革命以降、急激に増加。そのため、文明社会が消費する資源と、地球が持つ資産との間にアンバランスが生じ、エネルギー不足、食料不足、自然破壊、生物多様性の危機、気候変動などの、地球規模の危機が起きているので

す。そういう意味で、私たちは、地球1個分の生活をしていく必要があるのです。

でも私たちは生活の質を下げたくはありません。豊かで健全な生活のまま、地球1個分の生活を実現したい。また、格差をなくし、人類社会はバランスよく暮らしていきたい。その思いから作られているのがSDGsだと思います。

人類社会と自然とのアンバランス

今、私たちが直面している新型コロナウィルスの問題も同じです。HIVやSARSなど、新興感染症という新しい病気を引き起こすウィルスです。このような問題の背景にも、人類社会と自然とのアンバランスがあります。



プロフィール

昭和28年岡山県倉敷市生まれ。昭和51年NHK入局。「ウルトラアイ」「クローズアップ現代」「NHKスペシャル」などの科学番組、特集番組チーフプロデューサー、NHK解説主幹の後定年退職。モンテカルロ国際映像祭金獅子賞・銀獅子賞、レーニエ3世賞、放送文化基金賞、上海国際映像祭撮影賞、科学技術映像祭科学技術長官賞、橋田寿賀子賞ほか多数受賞。大正大学客員教授。東京都市大学特別教授。武蔵野美術大学講師。

人口増加で、野生動物しかいなかった自然の中に人間が進出し、未知のウィルスに感染することで起きているわけで、これまたSDGsと密接に関係があるのです。これらの現状を見るにつけ、私たちは、子孫のために美しい地球を残し、平和で安全安心な社会を作らなければならない瀬戸際に立たされているのではないかと思います。

※人間の生活がどれほど自然環境に依存しているかを、わかりやすく伝える指標。



拉致問題早期解決を願って

拉致問題の早期解決を願う国民のつどいin米子

解決に向けて民意を集結

政府や自治体が主催する国民の集いが、各地で開催されています。これは拉致問題の啓発を促進するためのものです。

令和2年11月3日には、鳥取県米子市で「拉致問題の早期解決を願う国民のつどい」が開かれました。主催者を代表して、三ツ林裕巳（みつばやしひろみ）拉致問題担当副大臣が「すべての拉致被害者の一日も早い帰国実現に向けてあらゆるチャンスをつかみ逃さず、となく全力で行動していく」とあいさつ。集会には支援者や拉致被害者家族ら約270人が参加しました。

1977（昭和52）年に、米子市内で拉致された松本京子（まつもときょうこ）さんの兄、松本孟（まつもととしはるめ）さんをはじめとする拉致被害者や特定失踪者のご家族が登壇され「一日も早い帰国を」と訴えました。

特定失踪者問題調査会代表の荒木

和博（あらかずひろ）さんは「拉致解決に向けて世論を起こして拉致被害者を助け出しましょう。拉致被害者の救出はやればできるんだ」と講演されました。

また、シンガーソングライターの山口采希（やまぐちあやき）さんは、拉致被害者全員の救出を願って熱い思いを歌と言葉に乗せて語られました。

12月には兵庫県内でも北朝鮮拉致問題早期解決を願ってパネル展が実施されました。また兵庫県でも今年2月14日に兵庫県公館で「拉致問題を考える国民のつどい」が開催されます。



三ツ林拉致問題担当副大臣

拉致問題への理解

1970年頃から80年頃にかけて、北朝鮮当局による日本人拉致事件が多発しました。2002（平成14）年9月に北朝鮮当局は日本人拉致を認め、同年10月に5人の被害者が帰国しました。政府認定拉致被害者17人のうち、兵庫県関係者には有本恵子（ありもとけいこ）さん、田中実（たなかみのる）さんの2人がいます。そのほか、北朝鮮当局による拉致の可能性を排除できない行方不明者もいます。日本政府は、拉致被害者に関する捜査、調査及び情報収集活動を進めており、今後の動向が注目されます。

拉致問題は一刻も早く解決しなければならぬ人権侵害問題です。拉致問題についての関心を高め、認識を深めていくことが大切です。



但陽信用金庫/パネル展示

「拉致問題を考える国民のつどいin兵庫・神戸」のご案内

YouTube 拉致問題対策本部公式動画チャンネルでインターネット配信を行います。

下記のURLからご視聴できます。（申込不要）

配信日時 令和3年2月14日（日）14:00～16:00（ライブ配信）

拉致問題対策本部

検索

<https://www.youtube.com/c/rachitaichannel>

主催 政府拉致問題対策本部・兵庫県・神戸市 会場 兵庫県公館

- 内容 ・有本恵子さん等拉致被害者ご家族・特定失踪者ご家族の訴え
・講演「全拉致被害者の即時一括帰国を実現するために」（救う会会長 西岡 力氏）
- お問合せ 兵庫県健康福祉部社会福祉局 人権推進課 TEL 078-362-3229 FAX 078-362-4266

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、開催を中止することがあります。



アイヌ文化復興の拠点ウポポイ (民族共生象徴空間)オープン

国立アイヌ民族博物館 展示企画室長

田村 将人 さん



プロフィール

1976年、北海道生まれ。千葉大学大学院修了。北海道開拓記念館(現・北海道博物館)学芸員、札幌大学特命准教授を歴任。2016年から文化庁・国立のアイヌ文化博物館(仮称)学芸員(東京国立博物館主任研究員)を経て、現職。専門は、20世紀の樺太アイヌの歴史研究(インタビュー、日露の公文書、新聞記事等による)。

ウポポイ(民族共生象徴空間)が、2020(令和2)年7月12日、北海道白老町にオープンしました。ウポポイは、先住民族の尊厳を尊重し、差別のない多様な豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていくための象徴として整備されたもので、アイヌ文化の復興・発展のための拠点となるナショナルセンターです。その主要施設には、国立アイヌ民族博物館、国立民族共生公園、慰霊施設があります。

愛称のウポポイは、アイヌ語による「(おおぜいで)歌うこと」に基づいています。多言語表示の第一にはアイヌ語があり、各施設、愛称、ロゴのいずれも、伝承者や研究者・デザイナーなど、各地のアイヌ民族や和人(日本の多数者)のほか、多くの方の協力を得てオープンにこぎつけました。

アイヌ文化を知ろう

日本列島の北辺、北海道、樺太(サハリン)、千島、そして東北地方に居住地を持っていたアイヌ民族。かつてはクマやシカ、アザラシなどの狩猟、山菜などの採集、サケ・マスなどの漁撈、ヒエやアワなどの農耕を生業としてきました。しかし、明治以降、日本政府による同化政策等により伝統的な生活や、独自のアイヌ語の継承が難しい状況が続き、また民族差別のためアイデンティティそのものも脅かされてきました。現在では、アイヌ語はユネスコ(国連教育科学文化機関)による消滅の危機に瀕する言語に該当し、沖縄語などとともに保存・継承の取組が行われています。

ウポポイ施設紹介

このようなアイヌ民族の文化・言

語・歴史を知ってもらうための施設がウポポイにはあります。国立アイヌ民族博物館の常設の基本展示室では、「私たち」アイヌ民族の視点による6つのテーマ「私たちのことば」、「私たちの歴史」などが収蔵資料を通して学べます。また、国立民族共生公園では、かつての生活空間・生活技術を体感できるエリア「伝統的コタン」や、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「アイヌ古式舞踊」や口承文芸などを上演する「体験交流ホール」、楽器演奏や紙人形劇が鑑賞ができる「体験学習館」、刺繍や木彫りの実演見学や製作体験ができる「工房」などがあり、全体を見るには数時間から一日が必要なほど充実しています。

アイヌ民族や和人など様々なアイデンティティを持つ職員が働いています。ぜひ、お越しください。

映画紹介



©2019 Factory Gate Films. All Rights Reserved.

『羊飼いと風船』

避妊具を風船にして遊び子供たちが父親に叱られる。本作はそうないささか滑稽な情景から始まりますが、この避妊具は他でもない中国政府が産児制限促進のために地域の診療所で配布しているものなのです。青海省チベット族自治州の牧畜民は出産を三人までに制限されているのです。

前述のいたずらが災いし、一家の母ドルカルは四人目を身籠ってしまいます。旧来の生活において子供は労働力として期待されていましたが、今は町の寄宿学校に通うのが当たり前となっています。そのため女性の仕事量は増加し、朝から晩まで働き詰めのドルカルにとって妊娠は常々不安の種であり、堕胎を決意します。ところが時を同じくして祖父が急逝し、「間もなく家族に転生する」という高僧の言葉によって、夫タルギエはお腹の子を祖父の生まれ変わりと確信し、ドルカルを責め立てます。

伝統と国策。その対立の中で顧みられることのなかったチベット族の女性の苦労を、本作は訴えています。

■監督・脚本:ベマ・ツェテン

■2019年/中国/102分 ■原題:気球 Balloon ■配給:ピタース・エンド

■2月19日からシネリーブル神戸で公開 ■お問い合わせは、078(334)2126

◆◆◆令和2年度「人権のつどい」を開催◆◆◆

昨年12月2日(水)に令和2年度「人権のつどい」を開催しました。この行事は「人権週間(12/4～10)」の意義を広く県民に周知し、「人権文化をすすめる県民運動」を一層推進するために行っているものです。コロナ下において、感染予防に努め開催しました。兵庫県公館の会場開催とともに、オンラインでも配信し、多くの方々に参加していただきました。

「のじぎく文芸賞」の表彰式に始まり、ピアノ、ヴァイオリン、チェロ三重奏の「ハートフル人権ミニコンサート」に



ヴァイオリン/土井美佳さん ピアノ/内藤雪子さん チェロ/皆川隼人さん



森光玲雄さん

続き、諏訪赤十字病院臨床心理課長 森光玲雄さんが登壇されました。「病気になることは悪いこと?—コロナで問われる私たちの差別意識」と題しコロナ下において誹謗中傷が生み出され広がっていく仕組みや「多面的な視点を持つこと」「他者の痛みに気づくこと」の重要性などをご講演いただき、改めて「人権」について見つめ直す良い機会となりました。

当日の講演会の様子は兵庫県人権啓発協会YouTubeチャンネルで3月末まで配信しています。どうぞご覧ください。

兵庫県人権啓発協会YouTube

検索

人権啓発ビデオ紹介 カンパニユラの夢

テーマ 超高齢化社会とひきこもり (8050問題)

作品内容 この作品は、二つの家族の視点で進行します。主人公の岸本麻帆はあることをきっかけに「ひきこもり」は誰にでも起こり得ることだと気づきます。一方、20年以上ひきこもり状態にある谷口誠一とその両親は問題が長期化する中で、解決の糸口すら見いだせないまま苦悩しています。そして、麻帆は谷口家の抱える問題に寄り添い、解決策を求め行動を起こします。

急速に高齢化が進む今、8050問題は誰にでも起こりうるものと認識し、地域の人々がひきこもりなどの悩みを共有し偏見をなくすとともに、互いに助け合うことで地域共生社会の実現をめざす内容となっています。

出演者 宮地真緒、六角精児、山田ルイ53世、白石優愛ほか
(制作・販売 神広企画株式会社 TEL:078-360-6336)



■企 画/兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会
■上映時間/36分
■企画協力/兵庫県教育委員会
■制 作/神広企画株式会社

詳しくは 兵庫県人権啓発協会 検索



こんなことがありました。
先日の出来事です。ポケットに入れていたスマホをどこかに落としてしまいました。
通った場所など探しましたが見つからず、携帯電話ショップでスマホの位置情報を確認し、電波を止めました。
スマホの電波が確認できた場所へ戻り近くの診療所で聞いたところ、その診療所の看板の上にスマホが置いてあり、それを拾ったという患者さんがいらしたとのこと。診療所でスマホを拾ってくださった方と連絡を取っていただき、警察署へ届けられたと伺い、警察署にてスマホを受け取ることができました。
落としたスマホを安全な看板の上においてくださった方、患者さんに連絡を取ってくださった診療所の方、そしてスマホを警察署へ届けてくださった方、本当にありがとうございました。

このような「ありがとう」を発信してみませんか。
現在ホームページ開設中の「ひょうご・オンライン人権フェア」にて心温まるエピソードを紹介しています。SNSにて「#Thanks/パトン」でつぶやいてください。
また、「ひょうご人権ジャーナルきずな」でも心温まるエピソードなどを募集します。きずな掲載者には協会オリジナルグッズをプレゼント!どしどしご投稿ください。
投稿は当協会「きずな」読者からのお便り 係 まで
あて先、メールアドレスは欄外を参照。

*応募者および投稿者の個人情報は、管理を適切に行い、誌面づくり、「#Thanks/パトン」以外の目的には利用いたしません。

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

兵庫県人権啓発協会

検索



(公財)兵庫県人権啓発協会 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内
TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 info@hyogo-jinken.or.jp

2021(令和3)年2月発行